

# 台風2号対策について

平成23年5月27日  
営農支援課

## I ハウス等施設全般の対策

施設については別添の「ハウス等施設の台風対策」の項を参照。

## II 作物別の対策

### 1 普通作物

#### 【早期水稻（分けつ期～幼穂形成期）】

##### （1）事前対策

- ①深水にして、稲株の損傷の軽減を図る。  
※但し、棚田等で畦畔崩壊のおそれのあるところは注意する。
- ②冠水しやすい水田では、排水路の整備を行う。

##### （2）事後対策

- ①冠水している場合は、速やかに排水する。
- ②強風により葉がすれると、葉いもちなど出やすくなるので、特に箱施薬をしていないところでは発生に注意する。

#### 【普通期水稻（育苗期～田植期）】

##### （1）事前対策

- ①育苗時期にあるものは、苗箱が冠水しないよう排水対策を行う。
- ②強風や飛散物等により、苗の損傷のおそれがある場合は、苗床全体を被覆するなどして、被害の軽減を図る。
- ③田植え後は、深水にして茎葉の損傷の軽減を図る。  
※但し、棚田等で畦畔崩壊のおそれのあるところでは注意する。
- ④冠水しやすい水田では、排水路の整備を行う。

##### （2）事後対策

- ①育苗期にあるもので、苗に泥が付着した場合は、かん水により洗い流す。
- ②田植え後に冠水した水田では、速やかに排水する。

#### 【麦類（収穫時期）】

##### （1）事前対策

- ①排水路を設置し、排水に努める。

##### （2）事後対策

- ①ほ場が冠水した場合は、速やかに排水する。
- ②成熟期にあるものは、遅れないように収穫する。

## 2 露地野菜

### 【きゅうり、ピーマン共通】

#### (1) 事前対策

- ①栽培ほ場周辺に防風ネットを張る。(きゅうりでは、全面ネット被覆栽培とする。)
- ②排水溝等を設置し、排水に努める。

#### (2) 事後対策

- ①枝の折れたものや損傷の激しいものは早目に整枝・剪定し、薬剤散布を行う。
- ②倒れた枝は上向きに誘引して、受光態勢を整え、草勢の回復を図る。
- ③傷害果や幼果は摘果して、草勢の回復を図る。
- ④速効性窒素肥料を成分で10a当り2～3kg施す。

### 【スイートコーン】

#### (1) 事前対策

- ①排水溝等を設置し、排水に努める。

#### (2) 事後対策

- ①冠水したほ場では速かに排水を行う。
- ②倒伏した場合は、上向きに誘引する。
- ③収穫期に入っているのもので、肥大したのから早めに収穫する。

### 【オクラ】

#### (1) 事前対策

- ①排水溝等を設置し、排水に努める。

#### (2) 事後対策

- ①冠水したほ場では、速かに排水を行う。
- ②倒伏したら上向きに誘引し、傷害果や幼果は摘果して、草勢の回復を図る。
- ③速効性肥料を追肥し、薬剤散布を行う。

### 【さといも】

#### (1) 事前対策

- ①排水溝等を設置し、排水に努める。

#### (2) 事後対策

- ①冠水したほ場では速かに排水を行い、早めに追肥を行う。
- ②株元まで冠水した場合は排水、マルチを剥いでから追肥、培土を行う。
- ③根が露出しているものは、早めに追肥して軽く土寄せする。

### 【かんしょ】

#### (1) 事前対策

- ①排水溝等を設置し、排水に努める。

#### (2) 事後対策

- ①冠水するといもが変質するので、冠水した場合は早急に排水を行う。
- ②根が露出している場合は培土をおこない、少量の窒素肥料を追肥して、草勢の回復を図る。

## 【じゃがいも】

### (1) 事前対策

① 排水溝等を設置し、排水に努める。

### (2) 事後対策

① 冠水したほ場では速かに排水をを行う。

② 収穫期なので、いもが肥大していれば早めに収穫する。収穫まで日数がかかるほ場については、疫病・軟腐病の予防として薬剤散布を直ちに行う。

## 3 施設野菜

施設については別添の「ハウス等施設の台風対策」の項を参照。

## 【いちご】

### (1) 事前対策

① 排水溝等を設置し、排水に努める。

② 寒冷紗・防風ネット等を苗の上に直接かけて、風で飛ばされないよう固定する。また、育苗ハウスの周囲に2～3mの防風ネットを設置し防風対策を講じる。

### (2) 事後対策

① 寒冷紗・防風ネット等の苗の上にかけていた被覆資材を、直ちに除去し、通風を良くする。

② 苗の冠部が土に埋まったものは、速やかに土を除去する。

③ 雨風に当たると炭そ病等の病苗が増えるので、病株を早めに除去する。

④ 草勢の低下により病害虫の発生が心配されるので、薬剤散布を実施する。特に土壌伝染性病害に注意する。

## 【雨除けピーマン】

### 事後対策

① ハウスビニル・防風ネット・寒冷紗等は直ちに除去し、通風を良くして、床面を乾燥させる。

② 枝の折れたものや損傷の激しいものは早目に整枝・剪定し、薬剤散布を行う。

③ 倒れた枝は上向きに誘引して、受光態勢を整え、草勢の回復を図る。

④ 傷害果や幼果は摘果して、草勢の回復を図る。

⑤ 速効性窒素肥料を成分で10a当り2～3kg施す。

## 4 果樹

### 【全果樹共通】

#### (1) 事前対策

① ほ場への降雨が速やかに排出されるように園内の排水対策を徹底する。

② 防風ネットの点検を行う。

③ 枝の分岐点が裂けるおそれのある幼木や高接ぎ樹では、枝葉をまとめて結束したり、分岐部を縄で8の字型に縛っておく。

## (2) 事後対策

- ① 幼木・若木・根元から揺さぶられた樹・倒伏した樹は、早急に立て直し、盛り土、根締めを行い、支柱で固定する。
- ② 枝折れ、枝裂けしたところは切り取り、大きな傷口には塗布剤を塗る。
- ③ 落葉のひどいものには、日焼けを防止するために、石灰乳を塗布する。

## 【かんきつ類全般】

### (1) 事前対策

- ① 風傷による葉や果実へのかいよう病の発生が懸念されるので、襲来前にカスガマイシン銅水和剤の散布を行う。

### (2) 事後対策

- ① かいよう病の発生を防止するため、事前の薬剤散布を実施していないところでは、カスガマイシン銅水和剤の散布を行う。
- ② 塩害が懸念される場合は、6時間以内に2～3トン／10a以上の水で洗い流す。その後落葉が発生した場合は、程度に応じた摘果（場合によっては全摘果）や枯れ枝の整理を行う。

## 【完熟きんかん】

### 事前対策

- ① 新梢が強風により折損することが予想されるので、防風ネットを設置し、風を弱めるようにする。

## 【落葉果樹類】

### 事後対策

- ① 病気の発生に注意し、防除基準に準じて襲来後直ちに防除を実施する。

## 5 花き

### 【露地花き全般】

#### (1) 事前対策

- ① 滞水しないように排水溝を整備する。
- ② マルチは土寄せ、市販止め具等によりしっかりとおさえ、風による剥がれを防ぐ。
- ③ 生育に応じて、支柱・ネット等で誘引・固定を実施し、茎葉の損傷を防ぐ。
- ④ ほ場周辺の片づけを行い、飛来物による作物の被害を防ぐ。

#### (2) 事後対策

- ① 冠水・浸水があった場合は、速やかに排水作業を行う。
- ② 必要に応じて殺菌剤、液肥の葉面散布、追肥を行う。

### 【シキミ】

#### (1) 事前対策

- ① 幼木は倒れる可能性があるので、支柱で固定する。

#### (2) 事後対策

- ① 湛水、冠水した場合は、速やかに排水を行う。
- ② 倒れた木、傾いた木は無理に起こすと根が切れて、枯死する可能性があるの

で、段階的に起こして、正常な状態に戻す。

- ③ほ場に土砂が流入した場合、根の活力が低下して枯死する場合があるので速やかに株の周りの土砂を取り除く。

## 【施設・雨よけ花き全般】

### （１）事前対策

- ①排水溝の整備、防風ネットの設置を行う。
- ②草丈がある程度伸びたものは、支柱を補強し、誘引ネット等の張りを強化して倒伏を防止する。
- ③ハウス内のかん水チューブやスプリンクラー、ミスト施設は風で飛ばないように収納あるいは固定する。

### （２）事後対策

- ①湛水、冠水した場合は、速やかに排水を行う。マルチ栽培の場合はマルチをはがして畦を乾燥させる。
- ②台風後の高温・強日射の被害を防ぐために寒冷紗等で被覆を行う。
- ③茎・葉の損傷が発生した場合は、薬剤防除・液肥の葉面散布等を行う。
- ④電照や夜冷育苗等、電気機器を使用する品目では、機器が正常に稼働するか点検・確認を実施する。

## 【ホオズキ】

### （１）事前対策

- ①茎葉の損傷を軽減するために、支柱・ネットによりできるだけ株の固定を行う。
- ②ハウスのビニル被覆を剥ぐときに備え、防風ネット等で畦の周囲を覆う。

### （２）事後対策

施設花き全般に準ずる。

## 【コショウラン他、冷房ハウス等】

### （１）事前対策

- ①長期停電に備え、自家発電等を用意する。
- ②デルフィニウム等の夜冷育苗は、苗を夜冷庫内に収納する。
- ③外部遮光、被覆等は除去するかハウス上部に巻き上げて固定する。

### （２）事後対策

- ①落雷等により停電した場合は冷房設定を再度確認する。
- ②夜冷育苗の場合は、台風通過後、すみやかに遮光資材等の被覆を元に戻し、苗を夜冷庫から外に出す。  
その他は施設花き全般に準ずる。

## 6 特用作物（茶）

### （１）事前対策

- ①2～3年生茶園では、徒長枝の整剪枝を実施する。
- ②幼木園（1～2年生）では、防風ネットを設置する。
- ③幼木園（1～2年生）では、株元やマルチ資材への土寄せにより、株の揺れやマルチのバタツキを防止する。

- ④ 敷草をして土壌の浸蝕防止と明渠による滞水防止と排水対策を実施する。
- ⑤ 茶工場（煙突、屋根、雨とい、窓等）の点検・整備・補強を実施する。

## （２）事後対策

- ① 風雨による倒伏や地際の損傷を受けた幼木の株元や剥げたマルチ資材への土寄せ、添え木、補修を実施する。
- ② 降雨がなく、海からの風で塩分が付着したとみられる茶園は、塩分付着 8 時間以内の早めの散水（5 mm 以上）により塩分を除去する。
- ③ 強風により葉の損傷を受けた茶園では薬剤散布を実施する。
- ④ 滞水・浸食部分の速やかな排水処理と改修・整備を実施する。

## 7 畜産

### 【畜産全般】

#### （１）事前対策

- ① 畜舎の防風対策を十分に行い、特に開閉部はしっかりと固定するなど、破損に注意する。
- ② 特に山間部では、道路の通行止めが予想されるため、飼料（配合飼料、青刈り、サイレージ含）は、余裕をもって準備する。
- ③ 停電が予想されるので、発電機の手配とともに、試運転を事前に行う。
- ④ 断水の可能性がある場合には、最小限の飲水量を給水タンク等で確保する。
- ⑤ 家畜ふん尿等が、流出しないよう、必要な対策を行う。

#### （２）事後対策

- ① 浸水した畜舎は、台風通過後に速やかに消毒する。

### 【養豚・養鶏】

#### （１）事前対策

- ① 鶏舎内への雨の打ちこみを避け、床に湿り防止を行う。

#### （２）事後対策

- ① 台風通過後は、急激に気温が上昇することがあるので、肥育豚及び出荷前のブロイラーでは、畜舎を開放するなど換気に努める。

### 【飼料作物】

- ① 発芽間もない飼料作物は、長期間の冠水で湿害が予想されるので、事前に排水対策を講じ、冠水した場合は速やかに排水を行う。

## 【事前対策】

### ①防風ネットの設置

防風ネットはあらゆる強風対策の基本です。必ず設置しましょう。

### ②被覆資材の補強

被覆資材がはがれる場合、屋根の両端の破れが引き金になります。

図1の ■ 部分をネットで保護しましょう。

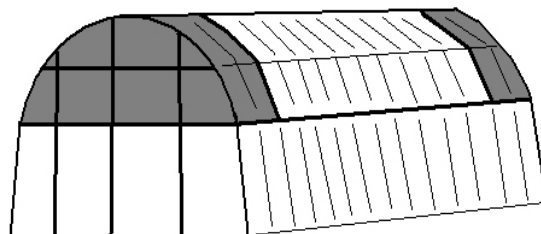


図1 被覆資材の補強

### ③ハウス本体の補強

ハウスビニル等にシワ・タルミがあると、耐風性は大幅に低下します。良く確認してください。サイドビニル、出入り口はしっかりと閉じて固定します。

ハウスバンドの本数を増やすとともに、締め直し補強します。ハウスバンドを止める両側のヨリ鋼線や支柱を支えるラセン杭も補強します。

硬質ハウスでは天窗の補強も大切です。ロープ等でしっかりと固定してください。

### ④排水対策の徹底

ハウス内に雨水が流入しないように、周囲の排水溝の整備を徹底します。また、ハウスが連棟の場合、谷水を「とい」などで排水路まで導き、ハウス内に入らないようにします。

### ⑤自動開閉装置対策

ハウスを締め切ったあと、温度センサーによって換気部が動き出さないようにします。

### ⑥燃料タンク対策

台風により、広範囲が冠水しているときに、燃料タンクが倒れたり、配管の破損等により燃料油が流出すると、農作物だけでなく施設周辺にも被害を及ぼすので、タンクの固定ボルトの増し締め、配管付近の片付けを行います。

### ⑦換気扇の利用

換気扇がある場合には、換気扇によってハウス内を低圧状態に保つことで、ハウスビニルの揺れを防止します。また、停電に備え非常用電源を準備します。

### ⑧倒壊の恐れがある場合

ハウス倒壊の危険がある場合には、押さえバンドを切ってビニールを除去し、ハウスの倒壊を防ぎます。

また、雨中の作業では、飛来物に注意し、転落事故にも気を付けましょう。

## 【事後対策】

通過後一気に晴れてしまうことが多いので、換気対策を優先し、換気部の補強を解き、自動開閉装置の設定を元に戻します。

ビニルが破損した場合には、速やかに補修します。

滞水した場合、排水を行ないます。